

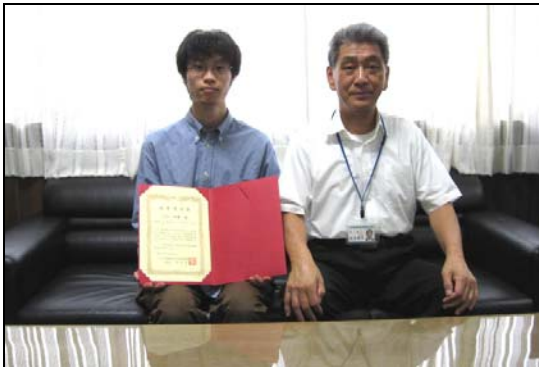
専攻科だより 第18号

平成 21 年 11 月

専攻科生の研究活動

■専攻科生が軽金属学会「優秀講演賞」受賞

平成 21 年 7 月 4 日（土）に第 1 回軽金属学会中国四国支部講演大会が愛媛大学で開催され、全 24 件のうち、弓削商船高専からは 2 件の発表が行われた。本校専攻科生産システム工学専攻 1 年大出明慶君が、「非比例変形を受けた AZ31 合金板の成形限界予測」について講演し、社団法人軽金属学会中国四国支部より、講演内容等が極めて優秀で軽金属に関する学術分野の進歩に寄与するところ多大であるとの理由で優秀講演賞を受賞した。



専攻科行事の報告

■専攻科英語キャンプ 2009—夏季集中・少人数形式で英語運用能力向上を目指して—

「専攻科英語キャンプ 2009」が本校専攻科 1 年生 12 名を対象に 7 月 27 日（月）～31 日（金）に実施されました。専攻科英語キャンプは専攻科学生の英語学習に対するモチベーションの向上、TOEIC のスコアアップを目的としており、2006 年度に「専攻科学生の英語

力向上のための English 集中レッスン」と題して試行的に実施して以来、毎年春季または夏季の長期休暇中に実施してきました。



今年度はアーク外語学園より Terri Malinski 先生, Aaron Scott 先生, Joel Winfield 先生, Matt Winfield 先生をお迎えして、少人数グループでの実践英会話練習を行いました。その他、本校英語専任教員による TOEIC 対策授業、英語での Power Point スライド作成実習、最終日には学生が一人ずつ英語でのプレゼンテーションを行いました。

学生達は旅行、研究、趣味など各自興味のあるテーマを設定して、工夫を凝らしたスライドを作成し、内容的にも充実した発表会となりました。



初日と最終日に実施した英語能力判定テスト（財団法人日本英語検定協会）の結果、最終日実施の平均が 386.8 点（570 点満点）で、

初日実施の平均346.8点に比べて平均40点向上し、また12名全員がスコアを向上させました。特に英文読解、リスニングの分野において短期間で得点向上がみられました。また、最終日に実施したアンケートでは、「英会話が楽しくなってきた」「TOEICを受験してみようと思う」など、数多くの前向きな感想が寄せられました。



英語は就職にも大学院進学にも必須です。今後も学生がTOEICなど自ら目標を掲げて、継続して英語学習に励むことを期待しています。



■専攻科実務者会議の報告

9月10～11日の2日間、全国高等専門学校専攻科実務者会議が大島商船高等専門学校主催で行われました。そこで会議の要旨についてご報告します。会議の議題は大きく分けて

3つのテーマについて議論されました。

一つ目は「中央教育審議会の答申および専攻科の現状の問題点と将来像について」です。専攻科の現状の問題点については、過密なカリキュラム、予算低下、入学生の質、設備の老朽化、教員の多忙など、各高専の抱える問題点についての多くの報告がなされました。中央教育審議会の答申と専攻科の将来像については、中教審において、本科の再編、新分野への展開と連動する形で、専攻科の設備充実高度化を図る必要があると答申されていますが、現在、専攻科の運営に当たっては、社会的ニーズ、地域ニーズに基く高度化再編を模索することが求められており、地域ニーズとは何か、地域貢献とは何なのか、あまりに抽象的な表現であり、今後、地域の各高専の実情に応じた専攻科の方向性を検討する必要があるのではないかと言う議論がなされました。

二つ目は「大学評価・学位授与機構および日本技術者教育認定機構との連携について」です。大学評価・学位授与機構との連携については、学修成果レポート、学位授与機構の審査についての問題点が報告され、審査の時期、回数、不合格者への情報開示等の改善点について、高専機構を通じて申し入れをして行こうということになりました。JABEEについては、国内において社会的に認知されておらず、JABEE自体が広報活動を行うよう求めていくことを確認しました。またエンジニアリング教育の現状について実施校より報告がありました。

三つ目は「専攻科の対外連携について」です。各高専より国内外連携についての報告がなされました。加えて高専機構より、連携について今後支援をしていくと言う理事からの意見がありました。